非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2016 年 2 月 20 日　月刊第 211 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　核兵器のない世界へ　私の想い　田中熙巳
2 面　非核の政府を求める会　新春シンポジウム 報告　原　和人
3 面　非核の政府を求める石川の会　第 28 回総会
4 面　言論・表現の自由が危ない　須藤春夫
5 面　会員エッセー集・出版祝賀会　中村昭一
2000 万署名は「総がかり」で　川本浩平
6 面　エッセー：つれづれに　江守道子
：もんじゅ　岩原茂明
7 面　独標より：最前線　喜多村貢
編集室より
8 面　被爆者が描いた体験画展　中田喜重
絵手紙コーナー　中山清子
非核平和・行事予定

◇講演要旨◇

核兵器のない世界へ 私の想い

田中熙巳
日本原水爆被害者団体協議会
事務局長

一月三一日(日)午後、金沢市内の会場で開催された『北陸原水協学校 in いしかわ』で日本被団協事務局長田中熙巳さんの「核兵器のない世界へ　私の思い」と題する講演がありました。

北陸原水協学校の学習講演より

田中さんは、「あの戦争は突然始まったのではない。満州事変がキッカケとなって中国大陸に戦線が拡大されていったのだが、当時日本は列強のＡＢＣＤ包囲網に対抗するためとの理由で無謀な戦争に突入していった。戦争の種類は違うが、今の情勢に似通っている。核のある今、実際に中東では戦争が起きている。そうした時に戦争の準備を進めようとしている政権に対する不安は大きい。止めなければならない」と語り始められました。

続いて自身の被爆体験に触れて「満州事変の翌年昭和七年満州で生まれ、終戦時は長崎で中学一年生だった。沖縄が占領され本土決戦ということで連日壕堀りの作業に動員されていた。長崎の町は軍需工場地帯を除いて空襲を受けていなかった。その日は休みで爆心地から三・二kmの自宅二階にいたが突然周りが真っ白になった。階段を駆け下りた瞬間に爆風が来て気を失った。母と妹二人がいたが無事だった。それから爆心地の浦上地区にいた親戚二軒を訪ねて捜し歩いた。近くの山から見た長崎の様子、何も残っていない光景、黒焦げの死体、呆然と横たわる傷病者・・・地獄の有様だった。その時に見た惨状、一遍に五人の肉親

花鳥風月

「戦争法反対」＝全国津々浦々に広がるデモ。国会議事堂を取り巻く十二万人を超す人々の声を無視し、民主主義否定の安保法を強行採決＝それから六ヶ月▼通常国会で「緊急事態条項」（何人も国の指示に従わなければならない）の強行を策する政府。さらに三日の衆院予算委で「首相９条改憲に言及」とあっては、昨年の新春のつどいで茹昭三氏が〝沈黙は不道徳〟（silence is immoral）と引用された、十五年戦争再現の「恐怖の時代」がそこまで迫ってきている▼そんな折に、『非核・いしかわ』一月号で、あずまこうじ氏の「統一する、手を繋ぐということは、信じ合うことです。…人として成長することです」との言葉に励まされます▼近代市民社会の成立を告げたアメリカの独立宣言やフランスの人権宣言は、封建制を打倒する運動から生まれました。そして人類が永い苦闘の歴史を経て到達した立憲主義のもと、国民主権・平和主義・基本的人権尊重の基本原理が謳われる日本の憲法▼統一の力でこれを守り「信じ合える」日本を切り拓くこと。ここに、現代を生きる私たちの共通の課題があると思います（こ）

を亡くしたこと、従妹の残した〝語り継いでいってほしい〟の言葉が被爆者運動に取り組む原点になった」と語られました。

戦後の被爆者運動の歴史を振り返って「政府から無視された五年間を経て一九五四年ビキニ被爆禍とそれをキッカケとした原水禁運動の中で、原爆被害者の救済と原水禁運動が車の両輪とされた。続いて一九五六年八月に日本被団協が結成され、苦難の運動の中で医療対策、生活支援対策が勝ち取られていったが、原爆被害者援護法制定を求める運動のなかで政府が持ち出した戦争被害『受忍』論によって、国家補償の精神は入れられずじまいになっている。

また一九七〇年代からは国際世論に働きかける運動に取り掛かるようになり、国連でのSSDⅠ～Ⅲ、世界法廷運動、更に数次にわたるNPT再検討会議などと広がり、最近は人道に反する兵器という観点から核兵器使用禁止を求める運動へと発展している。昨年のNPT再検討会議では最終文書が合意できなかったが、核兵器使用禁止条約に関する作業部会が今年開催されることになった。日本政府も参加はするとのことで、ここに被団協も関わっていきたい。

しかし、問題は核保有国とその核に依存する国に根強い『核抑止』論で、国内世論を変える努力が重要である。同時に軍事経済大国を目指し平和憲法の理念を変えようとしている勢力を止め、独裁を許さないということを訴えたい。そのためにも北陸三県のように一〇〇名を切っているような被爆者組織のところでは、各県の原水協がこれを支え、連帯していただきたい」と講演を結びました。

講演に先立って午前中は各県からの活動報告がされました。参加者は全体で七〇名でした。

（文責　非核いしかわ編集部）

2016年3・1ビキニデーパンフレットをご活用ください

ビキニ事件とはなにか、核兵器をめぐる最新情勢をコンパクトに学べる学習資料です。

頒価210円、B5判、16頁

非核の政府を求める会 新春シンポジウム・報告

「戦争法」推進と「核抑止力」依存―戦後最悪の安倍暴走政治打破の道を探る

◇スペシャルゲストの発言◇

林田光弘さん（明治学院大学院生・SEALDsメンバー）：

戦争法に対するたたかいは、主権を取りもどすたたかいだった。主権を取りもどすたたかい（＝個人を取り戻すたたかい）と核兵器をなくする運動は共通するたたかいであり、市民・個人の立場にたった運動が必要。

安倍政治打破の展望を語る4人のパネリスト

小川佳代子さん（安保関連法に反対するママの会@東京）：

憲法カフェや憲法語り部講座で活動している。誰の子どもも殺させない。空気を読んでいたら自分たちも守られない、子どもたちも守られない、そんな気持ちで活動している。

◇パネリストの発言◇

藤田俊彦さん（前長崎総合科学大学教授）：核兵器全面禁止の流れはどこまできたか

今回の第七〇回国連総会では、五八の核兵器関連決議が出されたが一つの決議が撤回され、最終的には五七の決議が採択された。国連決議の中で、核兵器関連決議は四〇％を占めた。

今回の特徴は、従来の新アジェンダ連合、非同盟諸国からの決議に加えて、核兵器の人道上の問題に関する決議が多く採択されたのが特徴である。その中で、オーストリアなどが提出した「核軍備縮小撤廃の多国間交渉の推進」の決議は、一三八の賛成、一二の反対、三四の棄権によって採択された。その内容は、「核兵器なき世界を達成し、かつ維持するために」、「効果的な法的処置、法的規定および規範に実質的に対処するために作業部会を開く」とするもので、「二〇一六年中にジュ

ネーブにおいて一五日間の日程」で、「国際団体および市民社会の代表の参加を得て」開催し、次回の第七一回国連総会に、「実質的作業および合意された韓国に関する報告をする」という内容が盛り込まれた。この日程は、すでに明らかにされている。また、この間の「核兵器の非人道的な結末」に関する声明に関する決議は、一四四の賛成、一八の反対、二二の棄権にて採択された。

さらに、オーストリアやメキシコなどが提出した「核兵器なき世界のための倫理的義務」という決議は、「核兵器は本質的には不道徳な兵器であり、核兵器の完全廃棄こそが必要であり、各国は、緊急かつ決意をもって行動する倫理的責任をもっている」とする内容で、一三二の賛成、三六の反対、一六の棄権にて採択された。さらに、日本などが提出した「核兵器の全面廃絶に向けた新たな決意の下での共同行動」は、従来の日本の主張であるステップバイステップ方式による核兵器の廃絶をめざすことに加え、今回、「被爆地への各国の指導者、若年層その他の人々の訪問とヒバクシャの証言を通じて、核兵器の使用の人道上の影響についての認識を高める」という内容を加えた決議で、一六六の賛成、二の反対、一六の棄権によって採択された。しかし、これまで日本の提出する決議に賛成していたアメリカ、イギリスなどが棄権した。アメリカを中心とする核兵器国が、人道的な結末の論議に危機感をもっていることと、各国首脳に被爆地への訪問を訴えたことを問題にしたようである。

非核の政府を求める会・新春シンポジウム会場

小澤隆一さん（東京慈恵医科大学教授）：米核戦略下の「戦争法」「日米ガイドライン」の危険

小澤氏は、憲法学者の立場から、この間の戦争法に関する運動を論評された。今回の戦争法に対するたたかいは、立憲主義、民主主義、平和主義が結合したたたかいであり、それゆえ、国民的な大きな運動になった。立憲主義とは「憲法に基づいた政治」であり、民主主義は「国民主権に基づいた政治」であり、平和主義は、「憲法九条に基づいた政治」である。まさに、これらの三つのたたかいが共鳴したのであり、今後においても、このような運動が必要であると述べられた。

岡野八代さん（同志社大学教授）：民主主義の力で憲法の精神に則った政治回復を

岡野氏は、これまで慰安婦問題に携わり、哲学者の立場から、近代憲法の立場から、今日の政治情勢を解説され、J・ロックの「法は真理を教えたり、意見の正しさを守るのではなく、この世の平和と各個人の所有権（身体・自由・財産）を守ることに限定される」ということを引用しながら、安倍首相が改憲で狙っている「愛国心」や「国を守る大切さ」などを強要することを批判した。

◇　◇

この他、日本共産党衆議院議員の笠井亮さんと専修大学教授の白藤博行さんの報告があり、その後、フロアからの発言も含めて討論が行われた。このシンポジウムは、今日の安倍暴走政治の本質を明らかにし、それに対して、どのように対峙していくのかという点で、とても有意義なシンポジウムであった。

◎本稿は非核の政府を求める会が一月一一日、東京・神田「学士会館」で開いた新春シンポジウムについての全国の会常任世話人の原和人さんの報告です。

非核の政府を求める石川の会第28回総会　ご案内

日　時　2016年6月11日（土）13：30～16：00
会　場　金沢市近江町交流プラザ　4階研修室（予定）
第1部　記念講演「宗教者と核兵器廃絶運動（仮題）」
講師　石川県宗教者平和協議会会長　河崎俊栄さん
第2部　総会議事
・2015年度活動報告及び2016年度活動方針案
・2015年度決算報告及び2016年度予算案
・役員改選

◇講演要旨◇

言論・表現の自由が危ない

須藤春夫

新春放談する須藤春夫さん

戦争法廃止の市民運動を

戦後七〇年、営々と築き上げてきた平和主義、民主主義が戦争法制定により一挙に崩された。これを奪い返すという市民運動、市民による革命がいま求められている。そのような自覚を持ち、判断力を持った市民が立ち上がっている。この市民運動を何としても広げて安倍政権を打倒し、戦争法を廃止していきたい。

本日、甘利明大臣が辞任するニュースが流れた。甘利大臣の政治とカネをめぐる疑惑を最初に報道したのは「週刊文春」だった。政権の弱点をスクープしたのが週刊誌であり、大手新聞社ではないのが残念だ。大手新聞社がこのような問題に迫りきれないのが、今のメディアの現状である。

日本の政治の動向について政権を批判的に読み解くことができるメディアは「しんぶん赤旗」と「日刊ゲンダイ」しかないと思う。沖縄には「沖縄タイムス」「琉球新報」という立派な新聞があり、地方紙でも北陸中日新聞など読み応えのある新聞はあるが、全国紙は非常に危機的な状況である。首都圏はじめ主要な大都市では全国紙のシェアは大きいため、全国紙の動向はあなどれない。

政府権力によるメディア介入

安倍政権は歴代の自民党政権とは異質のメディア介入を強め、朝日新聞は慰安婦報道によるバッシングを契機に変質しており、安倍政権を支える側に立ってしまう恐れがある。これを何とか食い止めないといけない。NHKは内閣総理大臣が任命した経営委員会への人事介入により、放送内容への統制を強めており、「クローズアップ現代」の国谷裕子キャスターを降板させた。

権力の側は絶えずメディアをコントロールしようとしている。

◎事例①　九・一一事件以降の対テロ戦争の戦争報道のあり方では、メディアはブッシュ大統領の「悪の枢軸」「テロ支援国家」のスローガン、愛国、国益にとらわれた〝正義の戦争〟報道で、映像は攻撃する側からみたもの。これでは戦争の真実は伝わらない。日本のイラク戦争報道も自衛隊のサマーワ派遣を「国際貢献」「人道復興支援」の視点に終始した。

◎事例②　安倍政権が成立させた戦争法制の真実を暴けたかでは、日本のマスメディアは日米同盟の必要性を前提としているため、戦争を未然に防ぐための平和安全法制という安倍政権の欺瞞に正面から対決できない弱点がある。

「私たちの自由は報道・言論の自由次第だ。それに制限をかけようとすれば私たちの自由は消滅してしまう」（第三代大統領のトーマス・ジェファーソン第三代米国大統領の言葉）

「世論」によるメディアへの圧力

◎事例③　後藤健二さんが「イスラム国」に拘束され殺害された事件では、「危険地帯では取材するな」という世論が強まり、安倍政権も「ジャーナリストが危険地帯に入っていったのは国益に反する」と批判し、世論に迎合・利用した。シリア取材を計画したジャーナリストの旅券を返納させた。これでは今後、戦争法施行により、自衛隊が戦場に派遣された場合、日本のジャーナリストが現地取材する機会が失われる可能性がある。

ジャーナリストが危険を冒してでも真実の報道することを世論は支持してくれるのかどうか。むしろ「迷惑・邪魔」と否定する動きがあり、ジャーナリズム側が委縮する傾向がある。TBS系「NEWS23」で戦争法を批判した岸井成格キャスターへの非難キャンペーン（市民団体を装った読売・産経での意見広告）などの「世論」をうまく利用しながら政府はメディアに圧力をかけている。

残念ながらメディア側がこの圧力に抗しきれずに国谷さん、岸井さん、そしてテレビ朝日系「報道ステーション」の古館伊知郎さんが三月末で降板することになった。

安倍政権が目論む明文改憲の「緊急事態条項」が制定されると、メディアだけでなく、私たち一人ひとりの発言もシャットアウトされる。特定秘密保護法も施行されており、戦争をしたがる権力の側の思うまま、ヒットラーの時代の再現という極めて危機的な状態である。

立憲主義、平和主義、民主主義を取り戻すこと、中でも民主主義を支えるには「言論・表現の自由」が重要である。

ＴＢＳの報道特集の金平茂紀キャスターは必ず現地取材を行い、記者の目で映像を撮り、事実を積み重ねて問題点を報道している。

岸井さんや古館さんは番組のなかでのコメントが狙い撃ちされたが、金平さんは事実報道により真実に迫っており、コメントは少ない。

これから私たちが市民運動を進めていく際には、メディアには現地取材に基づき事実を積み重ねて真実を報道するよう要求していくことが大事である。

（文責　非核いしかわ編集部）

◎本稿は一月二八日に開かれた「平和と民主主義を求める 第一八回新春のつどい」にて新春放談された須藤春夫さん（法政大学名誉教授、戦争をさせない石川の会事務局長）の講演要旨です。

非核・平和のひろば

国民への「総攻撃」には「総がかり」署名で反撃を！

川本浩平

二〇〇〇万統一署名用紙が各団体の機関誌に挟まれてくる。送付することで本当に署名が集まるだろうか。

私たちの九条の会も署名活動をしている。返送用封筒を添付し署名を依頼しているが、こちらの思惑通りの数が返って来ない。そこで、職域九条の会や地域で他団体の活動をしている方々と懇談し共同行動をすることになった。

職域九条の会は職員と保護者に声を掛け直ぐに一五〇筆を集め継続した運動になっている。寺院の住職は地域の寺院二一ヶ寺を訪問して署名を依頼し、教会は会員の、幼稚園でも職員や保護者の署名が集まっている。

地域の戸別訪問署名は、あれこれ考えているより行動しようとドアーコールをした。署名とカンパをいただいた自信から、在宅の多い毎週土曜日は一斉行動をすることになった。

安倍政権は教育、雇用、社会保障、貧困・格差、マスコミ報道への介入など、国民生活の破壊に総力を上げており、その究極が戦争法である。

国民への「総攻撃」に対し「総がかり」の闘いがこの署名運動であり、運動の原点は地域住民のなかにあることを教えられた。

「総がかり」で戦争法を廃止しよう。

（小立野犀川ロード九条の会事務局）

「会員エッセー集」出版記念祝賀会を開催

中村昭一

一月二六日㈫、当会の会員の執筆による「会員エッセー集」の出版を記念する祝賀会がＫＫＲホテル金沢で開かれ、井上代表を含め一四名が出席し、銘々が会報や当会に関わる話題や逸話を出し合い、楽しく懇談して交流を深めました。主な発言は以下のとおり。

◎この一年で当会は『花鳥風月集』『会員エッセー集』『非核・平和の自治体づくり（編集中）』と三つの出版にこぎつけることができ、大きな財産となった。

「会員エッセー集」出版記念祝賀会に参加された皆さん

◎この出版は若い人たちの社会参加への契機となり得る。

◎この出版は全国に誇れるものであり、非核の新しい運動のスタートにし得る。全国の会常任世話人会でも石川の会報がいつも話題になり、「エッセー集」も全国的に飛びぬけて評価されている。

◎〝県内自治体の平和事業アンケート〟は自治体にとっても議員にとっても活動の参考になり、とても魅力的な運動になっている。

◎この会は「地域の平和運動の情報の交差点」になっており、重要な役割を果たしている。

◎人道上、極限の無法性や暴力性を有する核兵器廃絶の取り組みは、実は街中でのヤクザ性を無くしていく取り組みと同質性や連続性を持つ。私たちは身近なところから、無法や暴力に抗して生きねばならない。巷の平和こそが大切だ。日頃から決して暴力で物事を片付けてはいけない。

◎暴力や無法に関連して述べると、今の世の中は全部、監視社会となっていて極めて危険な状態になりつつある。少なくとも録音や映像は本人の了解

を取るべきであろう。これは人権以前の問題なのだ。

◎私は今〝戦争法廃止〟に一所懸命だ。「民主主義ってなんだ！」「これだ！」と主張している青年に感動した。若者の取り組みが未来を創るとつくづく実感する。

◎非核の会は〝見果てぬ夢を追っている会〟と思っていたが、皆さんの話を聞いて、その存在意義がよく分かった。

◎既に被団協は被爆二世が中心になっており、被爆一世は自分の子どもに直接託す時代ではなくなっている。今後の会の在り方を広い角度から探求していきたい。

◎私はこのエッセー集の原稿に学校の先生のことを書いたが、今にして思えば、もっと平和と結び付けて書いておけば良かったように思う。

◎「人口の半数以上の署名を！」と核廃絶に取り組む日本原水協の新しい署名用紙も到着している。皆で意気高く取り組んでいきたい。

◎逆説的だが、非核の会は〝解散するのが目的〟の会だ。こんな会が必要なくなる世の中をめざして、若い人にも大いに広げて頑張っていこう！

◎今日は「エッセー集」の意義についてたくさん語り合われた。皆さんと力を合わせてこれからも議論を高めていかなければなりません。そのために若者の社会参加を促し、彼らを獲得する取り組みは重要だ。そしてその成果は、おそらく決定的に影響を及ぼすであろう。諦観に落ち込むことなく、どんどん若い人に働きかけて、若い会員を獲得していきたい！

◇　◇　◇

そもそも毎月の会報に会員の執筆するエッセーを掲載するようになったのは、編集委員会の討議の中から自然発生したもの。それが「会員の貴重な生の声」として傾聴されるようになり、さらには「会員と会員をつなぐ架け橋」となり得るものとなり、その延長線上に今回の出版に至った。これは偏に会員各位のお力添えによるものに他ならない。

非核の会が必要なくなり、目的を達成して解散の日をめでたく迎えることをめざして、また運動主体となる人間の世代的継承というテーマを常に掲げつつ、天王山となるであろう新年度を、心して迎えたいものです。

「エッセー集」の出版にあたり、会員各位から発行費用のご支援をいただき、感謝致します。誠に有難うございました。

（本紙編集長）

非核石川の会　リレーエッセー

つれづれに・・・

江守道子

私は、約二八年前に家族でアメリカに一年半住み、帰国後、近くて遠い国と言われる韓国語を学んでいます。それは、海外に出て、初めて最も近い国のことをあまりにも知らないということに気付いたからです。

先生は、韓国の美大卒業後、金沢美大大学院を卒業し日本に住み、陶芸家として活躍、同時に大学の非常勤講師のK氏。K先生は、韓国語に加え、韓国の歴史、文化、習慣など幅広く教えてくれ、先日、いつも日本と韓国で問題になっている歴史問題の話題になりました。その時、私の経験から、日本では中学、高校の社会科＆歴史の授業で昭和初期の頃迄は、学んだ記憶がありますが、とりわけ第二次世界大戦以後は、ほとんど授業らしい授業はなかったように思います。ところが、K先生曰く「韓国では、学校の歴史授業は九割が近代史中心、特に第二次世界大戦の植民地時代は、しっかり教える」とのことに驚きました。これでは、二国間でギャップがあって当然です。

今、慰安婦問題で新聞をはじめメディアは騒いでいますが、これもこのあたりに一つの原因があるように思います。もちろん、多くの一般の両国民は、事実は事実として認め、過去の問題にいつまでもとらわれる必要がないと考えているようですが、マスコミは執拗に（それがマスコミの仕事なのかもしれませんが）追いかけ、多くの韓国人がこの問題にとらわれているような書き方に思われてなりません。

その韓国もかつて、ベトナム戦争では虐殺、強姦、放火、略奪で少なくとも九〇〇〇人犠牲になったと言われています。この事実も韓国内では長くタブーとされてきましたが、民主化と共に徐々に明るみになり〝ニューズウィーク〟誌で取り上げられ、ベトナム戦争当時、韓国軍総司令官だった蔡命新は、インタビューで「誰に対しても償う必要はない。あれは戦争だった」と明言。韓国内の中学生向けの国定教科書には、〝共産侵略を受けているベトナムを支援するために国軍を派遣した〟の一行が記載されているのみです。ベトナムでは今も韓国に対する国民感情は極めて厳しいものがあると聞いています。日中間でも、南京事件をめぐり、いつも論争になるのは言うまでもありません。

加害者と被害者では問題のとらえ方が全く違うことは明らかです。我が国の政治家でも、時折、過去から学ぶことを忘れ、放言をしている姿には呆れます。歴史から学ぶ姿勢がなければ、未来も同じ過ちを犯すことになります。

二一世紀の今なお、世界のいたるところに戦火の絶え間がありません。為政者には、特に広い心と深い洞察力、先見の明を持っていただきたいと思います。私たち国民は、平和と安全を大切に、メディアに翻弄されることなく、冷静かつ賢く生き、国民の義務である選挙権を行使し、より良い国を目指したいものです。

もんじゅ

岩原茂明

二十年さまよい続けるもんじゅ様　裕子

もんじゅとは
廃止すべきや知恵どころ　宏

釈迦牟尼も救いようがないもんじゅ　茂明

これらは鶴彬生誕記念誌上川柳大会や和句報に寄せられた句である。

「ふげん」だって同じことだが、日本には、いや人類には制御できない原子の火を燃やし続ける幻想をふりまいて、いったいどこに神仏のご加護があるというのだろう。滑稽である。

川柳は風刺の文芸であり、滑稽、穿ち、軽みを特徴とするが、権力が行った不正にただ怒るのではなく、その矛盾を指摘して笑い飛ばしてしまうのである。

その限りでは、これらの句は秀句なのだと思う。

しかし、実に深刻な矛盾、私たちや子孫の未来をさえ失いかねない矛盾だが。かつてマルクスが資本家たちを指していった「我が亡きあとに洪水はきたれ！」まさにそのことばが天に唾するごとくあふれている句ではなかろうか。

（全日本川柳協会加盟　和川柳社）

詩人会議かなざわ「独標」より

最前線

喜多村　貢

風は吠える
　吠えるのである
荒れ狂う龍神さながら
　ゴーゴーと吠えるのである
浪も吠える
　吠えるのである
白い牙を剥く獣と化して
　ドドーンドドーンと吠えるのである
水平線は見えない
巨大な渦の嵐が　ただただ
逆らうものを
全部呑み込んでしまいそうに
不気味なのである

そんな嵐の真っ直中　頑強に
抵抗している奴がいる
今にもふっ飛ばされそうになりながら
踏んばっている奴がいる
沖縄辺野古の象徴
島人の全意志のあかし
反戦平和の最前線
　粗末なテント村よ
ここに出入りしているのは
みな戦争が大嫌いな人々
おばあもおじいも嫁さんも
漁師も学生も先生も議員も
フクシマの人もヒロシマ・ナガサキの人も
ミュージシャンも車イスの人も
右も左も仏に仕える人も
　思いは一つ
三六五日
二十四時間眠らないテント村よ
不屈な戦いの姿は
まるで
がじゅまるの木だ

《編集室より》

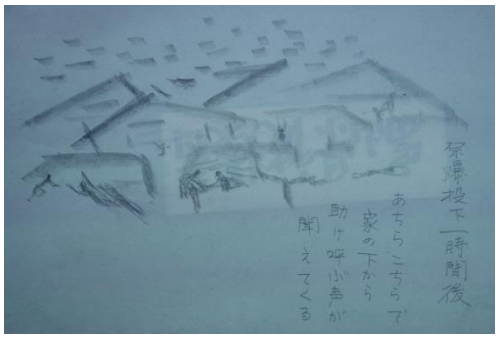
◎二月一一日、「建国記念の日」反対の集会で講演された田口昭典さん（金沢バプテスト教会牧師）は、安倍内閣が過去の侵略戦争を肯定している中で天皇がパラオやフィリピンを慰霊のため訪問し、メディアがこれを大きく報道していることにつき、次のように論評された。

「今の天皇は戦後、若い頃に自由、博愛、人の命を尊ぶ教育を丁寧に受けており、キリスト教的な博愛精神を持っている。天皇が先の大戦の戦没者を慰霊することは心情的には良いと思うが、しかし天皇の本来の国事行為を越えているのではないか。メディアによる天皇フィーバーは政府にとって非常に使い勝手のよいもの。天皇は国家の象徴であり、国事行為を越える存在にしてはいけない」と。メディアの健全性とは権力者など取材対象との〝距離感〟である。（か）

「被爆者が描いた体験画展」⑰

石川県原爆被災者友の会　中田喜重

原爆投下　一時間後



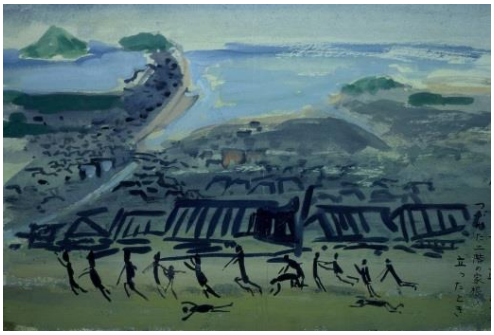
あちらこちらで、家の下から助けを呼ぶ声が聞こえてくる

昭和二〇年八月一三日　午前三時頃

鉄筋コンクリートが飴のようになった八千代町の三菱重工場

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　中山清子



倒れた家の下から這い出て、つぶれた２階の屋根に立ったとき

（訂正）本紙第二〇九号の絵手紙作者名に誤りがありました。中山清子さんに訂正します。

＜非核平和・行事予定＞

月	日	曜	時	内容	場所
2	27	土	13:30	学習会「教科書ではじまっている『せんそうする国』づくり」（講師　俵義文さん）	小松市大島町小松市民センター
	27	土	14:00	学習会「TPP交渉の『合意』とは？」(講師　内田聖子さん）	金沢市　ITビジネスプラザ武蔵6階
	27	土	19:00	石川県保険医協会第42回総会記念講演（講師　高橋源一郎さん）	金沢都ホテル地下2階セレモニーホール
	28（日）～3月1日（火）			3・1ビキニデー　問合せ：原水爆禁止石川県協議会へ	静岡県静岡市・焼津市
3	2	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	6	日	14:00	原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める県民集会(講師　保母武彦さん）	金沢市・石川県教育会館3階ホール
	9	水	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	11	金		福島原発事故発生5周年	
	11	金	19:00	311ありがとう石川　福島復興への祈りキャンドルナイト	金沢市しいのき迎賓館
	12	土	10:00	福島復興セレモニー＆イベント　311ありがとう石川実行委員会	
	16	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	19	土	14:00	戦争法廃止・ピーステント及び集会・デモ	金沢市四高記念公園・中央口
	20	日	13:30	2016・ピース・ウォーク	金沢市四高記念公園・中央口
	30	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
4	6	水	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	17	日	14:00	うたごえ新聞まつりinいしかわ・北陸	石川県立音楽堂邦楽ホール
5	3	火・休	13:30	平和憲法施行69周年記念石川県民集会（講師　中野晃一さん）	金沢市本多の森ホール
6	11	土	13:30	非核の政府を求める石川の会第28回総会(講師　河﨑俊栄さん)	金沢市近江町交流プラザ4階(予定）

＊ 祝日は休日としています　＊毎週金曜日18：30　どいね原発アピール行動　金沢駅東口

＊ 昼デモ　隔週水曜日に行動

＊「戦争法廃止・ピーステント」は、毎月19日（強行可決された日）に・2016年7月の参議院選挙まで実施されます